

ワケ カタチには理由がある(番外編4)

Shape follows
Function & Taste

～空いろのタクシー(「車のいろは空のいろ」)～



子供の時から気になっていた童話があって、それが、あまきみこ作「車のいろは空のいろ」という作品です。タクシー運転手の松井さんが乗せたお客さんが、実は子キツネ兄弟だったり、山猫のお医者さんだったり、或いはこの世にいない人だったり、といろいろな短編が詰まった3巻の絵本です(最初の本の初版は1968年のようです)。記憶が正しくないかもしれませんが、子キツネ兄弟の話が小学校の国語の教科書だったか副読本に載っていてなんとなく覚えていたのですが、中学生の時に、谷山浩子のファーストアルバムで楽曲になり、その他、人生の節々で思い出す童話でした。近年、また思い出して新しく買って読み直したのですが、歳を取ったせいか昔とは別の感慨も湧いてきました。北田卓史画伯の描くタクシーは多少の幅がありますが、ブルーバードのように思え、この模型をベースに「春野タクシー」を作りました。クラウンは松井さんがその後、個人タクシーを営んだというオリジナル設定の「松井タクシー」です。一番好きな話の「山猫おことわり」にちなんで、山猫の顔を描いています。作る段になって、ハタと悩んだのが「空のいろ」です。模型店で物色して、当初タミヤのフレンチブルーかなと思ったのですが、日本の空としては青すぎ、結局、DIYコーナーで見つけた水色の缶スプレーを使いました。日本の空色は優しい青でした。



【模型について】

アライ(ARII)の1/32のブルーバードとトヨペット・クラウンです。文字や側面の帯、ナンバープレートなど年賀状ソフトを使い自作デカールを作っています。(中川裕幸 2022年7月)